

# 緑立つ道の遺跡達

古文化同好会、第二京阪道路、寝屋川地区を探索

平成23年12月10日（土）

## 行 程

J R 星田駅⇒寝屋東遺跡⇒寝屋南遺跡⇒奥山1号墳⇒太秦古墳群⇒太秦遺跡⇒大尾遺跡⇒高宮遺跡⇒（参考・葺屋北遺跡）⇒小路遺跡⇒讚良郡条里遺跡（讚良川遺跡含む）⇒大正寺⇒忍陵神社⇒J R 忍ヶ丘駅（解散）



寝屋川市の「シンボルマーク・鉢かずき姫」

## 寢屋東遺跡



谷と谷とに挟まれた丘陵上から飛鳥時代から奈良時代にかけての掘立柱建物が15棟以上見つかり、この時期に付近の開発が始まったと考えられます。

## 寢屋南遺跡(二国下)



数棟からなる飛鳥時代の掘立柱建物跡が見つかりました。規模の小さいことから、小さい村が営まれていたと考えられます。

## 寝屋南遺跡（ビバホーム下）



二国の西側、ビバホームの下から弥生時代の終わり頃（2世紀頃）の集落と思われる所から、9棟の竪穴住居跡（一辺5～6mの方形）のほか柱穴、土坑、溝などが見つかる。数棟の住居跡では、床面で焼土や建築材が焼けたと考えられる炭が多く残っているものがあり、住居を廃棄した際に火をつけたことがわかり、また同じ場所で建て替えをおこなったものもありました。（寝屋川市教育委員会調査）



弥生時代（1800年前）高杯



手焙形土器



## 奥山遺跡（奥山1号墳）



古墳時代の円墳が単独で見つかりました。上部を大きく削られていましたが、埋葬施設はこの地方では珍しい横穴式石室を持つ古墳でした。内部には須恵器や土師器を始め、鉄製の弓矢などの武器類、ガラス玉などのアクセサリが収められており、特に耳飾りは11点見つかったことから、最低でも6人が次々と葬られていたことが判明しました。いずれ条件が整えば、復元する予定があるそうです。

うずまさこふんぐん

## 太秦古墳群(多数の小型の古墳)

太秦遺跡のある丘陵上では、「～塚」「～山」の地名が残っており、以前に埴輪や須恵器をはじめ鏡・鉄刀など古墳に関わる遺物が採集されています。また、近年の住宅開発等に伴う発掘調査で、数箇所でご墳の周濠と思われる遺構も検出されており、大阪市水道局豊野浄水場横に存在する太秦高塚古墳うずまさたかつか(市指定史跡)以外にも、多数の古墳が存在したと考えられていました。



第二京阪道路建設に伴う財団法人大阪府文化財センターの発掘調査では、25基の小型の古墳が密集して見つかりました。多くの古墳は、一辺が10m程度で上から見ると四角い形の古墳(方墳)です。いずれの古墳も、後世の造成工事等によって、墳丘(盛土部分)は失われており、死者を埋葬した部分(埋葬施設・主体部)は不明です。埴輪が見つかったのは2基の古墳だけで、お供え用と考えられる土器だけが見つかった古墳は16基あります。一方、土器や埴輪が出土しなかった古墳も7基見つかりました。太秦高塚古墳とほぼ同時期の、古墳時代中期(5世紀)に築かれたと考えられます。近くにある太秦高塚古墳(造り出しをもつ円墳:直径37m)では多数の埴輪が出土しており、ここで見つかった小規模な古墳とは規模や内容から大きな違いが認められます。こうした古墳に葬られた人々は、太秦高塚古墳の被葬者より社会的に低い階層の人々だと想像できます。

今回復元した古墳は、調査地西側で見つかった18号墳(一辺約9mの方墳)をもとに、盛土部分を復元して築かれた当時の状態を再現しました。



復元された古墳。古墳時代中期の方墳



うずまさいせき

## 太秦遺跡(丘陵上の弥生時代の集落)

太秦付近の丘陵上では、以前より土器や石器が採集されており、ここに弥生時代の遺跡があることが知られていました。しかし、調査等行われないうちに宅地造成や浄水場建設等の工事によって遺跡が失われ、その実態は不明のままでした。今回の第二京阪道路建設に伴う財団法人大阪府文化財センターの発掘調査によって、南側の尾根上で30棟以上のたてあな じゅうきょ竪穴住居跡などの多数の弥生時代の遺構が見つかりました。



竪穴住居跡は大部分が平面円形のもので直径5～6mのものですが、直径10m近い大型のものも見つかっています。丘陵上にあるため後世の破壊(削平)を受けており、住居跡などの残りは必ずしも良くありませんが、多数の土器や石器が見つかっています。特に、完全な形の磨製石剣や、ヒスイ(硬玉)製の勾玉は、重要な遺物です。出土土器の特徴より、弥生時代中期中頃～後半(2100年前)に集落が営まれたと考えられます。

ヒスイのまがたま勾玉は、1cm程度の非常に小さなものです。ヒスイ(こうぎょく硬玉)は遺跡周辺では採集することはできず、北陸地域(新潟県姫川産)からもたらされたものと考えられ、日本海側地域との交流があったことを裏付ける資料です。

今回の調査で謎のベールに包まれていた太秦遺跡の実態が、初めて明らかになりました。また、多数の竪穴住居跡が見つかり、これまで遺物が出土している北側の丘陵上の遺跡をあわせて考えると、北河内地域有数の弥生時代の遺跡となると考えられます。

太秦遺跡の発掘現場（多数の円形建物が見える）



出土品



ヒスイの勾玉（非常に小さい）



## 石器類



## 土器類





だ い び い せ き

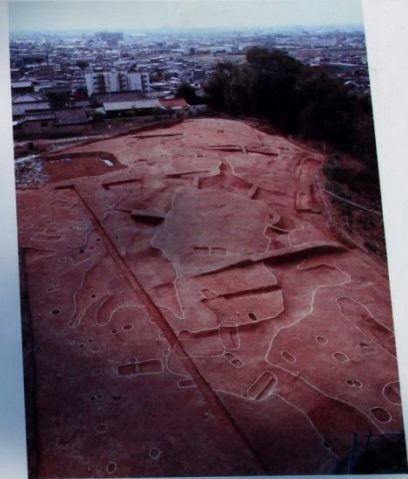
## 大尾遺跡(弥生時代の墓地)

太秦遺跡の弥生時代の集落が見つかった丘陵から、谷を隔てて西側の丘陵上では、第二京阪道路建設に伴う財団法人大阪府文化財センターの発掘調査によって方形周溝墓と呼ばれる平面が長方形で周囲に溝を巡らせた墓が多数見つかりました。

いずれも、後世の造成工事等によって削平を受けており、盛土部分は失われていました。残っていた周囲の溝からは、お供えとして使用されたと考えられる多数の土器が見つかりました。こうした土器は、その特徴から弥生時代中期中頃～後半（2100年前）のもので、太秦遺跡と同時期であることがわかりました。弥生時代の墓は、市内では初めての発見になります。

今回の発掘調査で、当時の人々は居住域（太秦遺跡）と墓地（大尾遺跡）をそれぞれ別の丘陵に営んで、計画的に利用していたことがわかりました。また、居住域と墓地が近接して見つかったことで、弥生時代のムラの様子を考えるうえでも重要な遺跡となりました。

今回復元した方形周溝墓は、調査地北側で見つかった方形周溝墓9をもとに、他の遺跡例を参考に盛土部分を推定し、築かれた当時の状態に復元しました。



復元された弥生時代の方形周溝墓



たかみやいせき

## 高宮遺跡(古代の大型建物跡)

古代寺院の高宮廃寺跡（国指定史跡）の南東側の丘陵上では、第二京阪道路建設に伴う財団法人大阪府文化財センターの発掘調査で、古墳時代中期（5世紀）～鎌倉時代（13世紀）の集落跡が見つかりました。

特に、大きな柱穴をもつ古代の建物跡は、重要な遺構です。柱穴は一辺1m以上の巨大なもので、痕跡より直径50cm程度の柱が使用されていたと推定されます。床下にも柱がある構造で、高床の倉庫に復元できます。建物は、丘陵を造成した平坦部分に、東西方向に5棟が並んで見つかりました。柱穴や周辺から出土した土器から、古代（奈良時代：8世紀）に建てられたと考えられます。



高宮廃寺に隣接する位置にあることから、寺院あるいは寺を経営した古代豪族に関わる倉庫群とする意見や、この地域が含まれる古代の讚良郡の役所（郡衙）あるいは古代の高宮郷に関する倉庫群とする意見があります。周辺では役人が身に付けた石製の帯飾りや、人面墨書土器・人形・斎串・絵馬といった都から多数出土するまじないに使われた道具がみつかり、この地域が古代において重要な地域であったと考えられます。

この遺構表示は、遺存状態の良い大型総柱建物4（写真中央の建物）を参考に、建物および柱の大きさを表現しました。

### 奈良時代の掘立柱倉庫（高宮廃寺の付随施設か）





## 葎屋北遺跡発掘状況



## 馬の全身骨格出土



## しょうじいせき 小路遺跡(古墳出現期の墓)

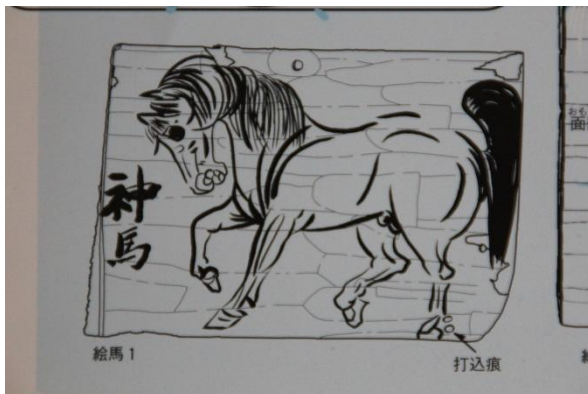
旧国道170号線(河内街道)付近では、第二京阪道路建設に伴う財団法人大阪府文化財センターの発掘調査によって弥生時代終わり頃から古墳時代初めの集落跡が見つかり、平面方形の竪穴住居跡や井戸が検出されました。この集落の東側の丘陵の麓にあたる小路遺跡では、10基余りの同時期の墓が見つかりました。中でも、平面形が前方後方形の墓は、全長22.7mと他の墓と比較すると規模の大きなものです。弥生時代の四角い墓(方形周溝墓)に、前方後円墳のような台形の前方が付いており、弥生時代の墓から古墳への中間の形態とすることができます。残念ながら後世に削られており盛土部分は失われていましたが、本来は高さ1m程度の盛土があったと思われます。墓の周囲には溝が巡っており、口が大きく開き、櫛のような工具で文様が描かれた壺などの、葬儀に使用されたと考えられる土器が出土しています。こうした文様をもつ土器は、集落遺跡からはほとんど見つかっておらず、葬儀のために特別に造られたと考えられます。



前方後方形の墓については、滋賀県(琵琶湖周辺)以東の地域で多く見つかっています。小路遺跡で見つかった前方後方形の墓も、淀川などを通じてこうした地域との交流の結果と考えることも可能です。墓が造られた時期は、中国の歴史書『魏志倭人伝』に記された邪馬台国の時代にあたります。北河内地域ではこの時期の墓は数少なく、当時のこの地域を考えるうえで貴重な資料となりました。前方後方形の墓は保存がはかられ、現在は埋め戻されて西側の第二京阪道路の下に眠っています。

廣岡山市教育委員会

丘陵から下がった平地部に立地します。古墳時代では初頭に築かれた前方後方形の周溝墓が分布の中心とされる東海・近江地方をはずれたこの北河内地域で見つかったこと、奈良時代では都と同じように災いや疫病神を払うために用いられた人面墨書土器や、願掛けに使用された絵馬が流路から大量に出てきたことで脚光を浴びています。

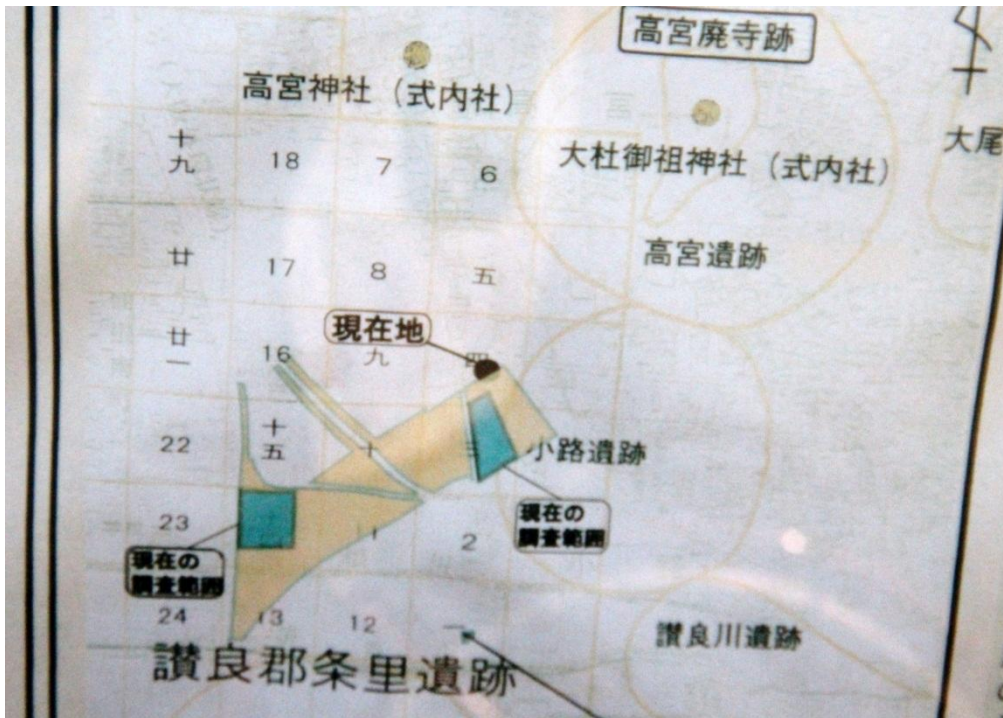




## 讚良郡条里遺跡



## 条里跡と遺跡群



## 周辺遺跡からの出土品



貝殻の埋まった穴



布留式土器



縄文土器



弥生土器・壺



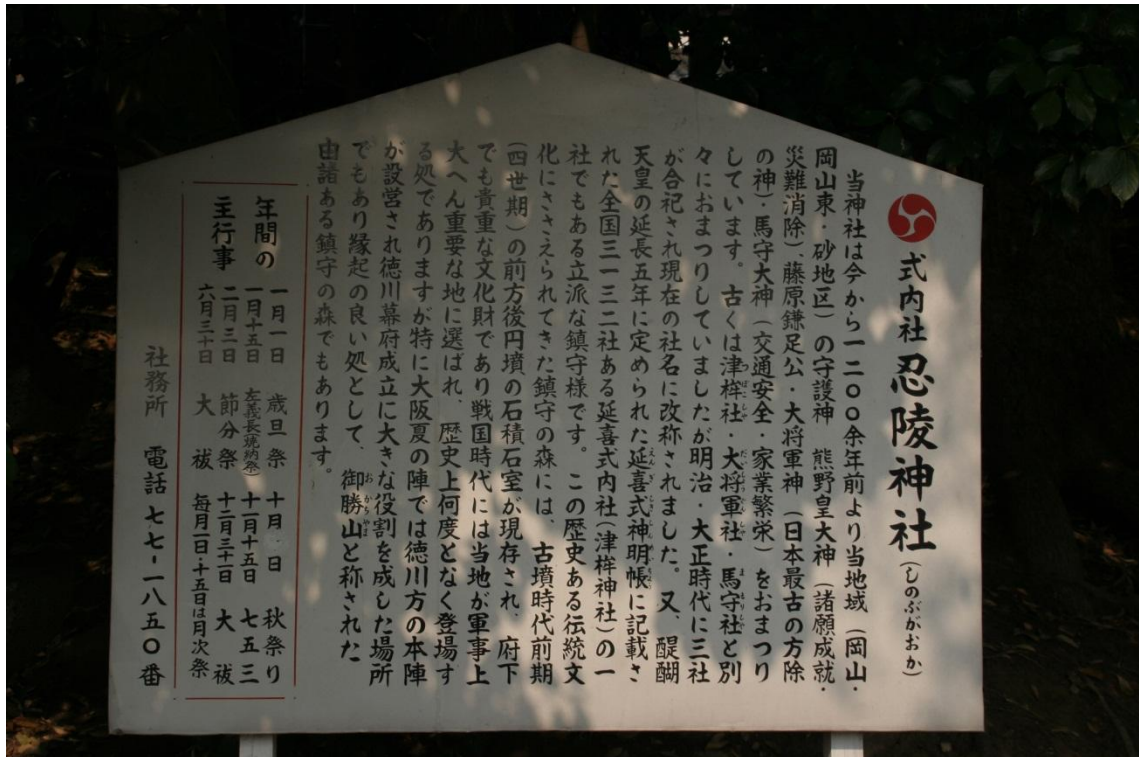
ナイフ形石器



シカの骨



## 忍陵神社（四条畷市岡山）



大坂夏の陣における徳川方の本陣の説明がある

しのぶがおかこふん  
忍岡古墳（大阪府指定史跡）

Historic : Shinobugaoka Tumulus

この古墳は、古墳時代前期(4世紀中ごろ)に築造された全長87mの前方後円墳です。標高36m、河内平野を一望できるこの場所に豪族が豪華な副葬品とともに葬られていたのです。

古墳の発見は、昭和9(1934)年の室戸台風によって忍陵神社が倒壊し、その再建工事中に石室が発見されたことにはじまります。

翌年、京都大学によって発掘調査されました。石室は、長さ6m・幅1mで、板状の石を丁寧に積み上げた立派な堅穴式石室でした。近年の研究で兵庫県猪名川産の石が使われていることがわかりました。副葬品は、紡錘車・鍬形石・石釧や小札・剣・銚・刀子・矢じり・鎌などが見つかりました(京都大学総合博物館蔵)。同年、地域の方々の熱意で覆屋が建てられ保存されました。

長い間石室を保護した覆屋ですが、平成7(1995)年の震災によって傾いたのを機に覆屋再建が計画されました。地域の方々の寄付を基盤に、平成14(2002)年12月、覆屋が完成しました。このような貴重な堅穴式石室が保存され見学できるのは郷土の誇りです。

大阪府教育委員会  
四條畷市教育委員会  
畷古文化研究保存会



説明資料はこの古墳以外、寝屋川市教育委員会の物を使用